

## 和歌山病院での実習を終えて



林 菜摘

私たち P 班は、11 月 6.7 日の 2 日間和歌山病院の呼吸器内科で実習をさせていただきました。普段の大学でうける講義とは少し違った講義や実習となり大変有意義な時間でした。駿田副院長には、結核の講義をしていただきました。結核といえば完全に閉鎖されるという誤ったイメージをもっており、結核病棟に入ることを少しためらってしまっていました。実際にはマスクを正しく着用していれば問題ないこと、ドアノブ等の接触による感染はないこと等、正しい知識を教えていただき大変ためになりました。実際の結核病棟も施設が整っており、結核患者さんが入院しやすいような工夫も多数なされていて驚きました。南方院長には胸部レントゲンの読影を教えていただきました。普段はあやふやな知識で読影していましたが、講義を通して「じっくり考えて読影すること」の大切さも教わりました。どうして白黒にうつるのか、どうすれば境界ができるのかなど原理を教えていただくことで、暗記による読影から考える読影にかわり、より理解が増しました。この勉強法は、読影だけでなく他科の勉強をする際にも活用していこうと思います。またブロンコ体操では暗記しにくい肺区域を体で覚えることで頭に残りやすくなりました。

今回の 2 日間の実習で学んだことを、大学での臨床実習や卒業後も生かしていきたいと思えます。貴重なお時間を割いて講義してくださった南方院長、駿田副院長、川邊先生、実習に協力してくださったスタッフの方々、入院患者の皆さまに深く御礼申し上げます。2 日間と短い期間でしたが、本当にありがとうございました。